

横浜市立 下野庭小学校 学校評価報告書 (平成28～30年度)

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力(学習指導)	①学力・学習状況調査の結果を基に学年内でつけたい力を明確にし、少人数指導や教科担任制を効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を図る。②教材研究を深め、ワークシートの開発・板書や教具活用の工夫等を行い、児童の実態に合わせた支援を行う。③朝学習や家庭学習を活用し、はまっ子学習ドリルや繰り返し学習を計画的に進めていく。	①学状の分析を生かし、少人数や教科担任制を取り入れて、一人ひとりの実態に合わせた支援の工夫が実現した。②学年研で教材や学習活動について話し合い、進んでいる子や遅れている子のワークシートを工夫した。③学年内で相談し繰り返し学習を継続的に実施したが、はまっ子学習ドリルの朝の活用は時間的に難しくなった。	B	確かな学力	①ねらいを明確にした授業づくりに努め、ワークシートの開発・板書や教具活用の工夫等を行い、児童の実態に合わせた支援をする。②学力・学習状況調査の結果を基につけたい力を明確にし、少人数指導や教科担任制を効果的に取り入れ、基礎・基本の定着を図る。③朝学習や家庭学習を活用し、繰り返し学習を計画的に進めることで技能の向上を図る。	①授業毎にねらいを明確にして授業をすすめる。学年研ではワークシートや板書の工夫に努めた。②今年度も少人数指導や教科担任制を取り入れ、一人ひとりの実態に合わせて支援を行った。個人差が大きいので対応は難しい。③学年で内容を相談し、計画的に朝学習や家庭学習を活用して基礎・基本の定着を図った。	B	確かな学力	①ねらいを明確にした授業づくりに努め、児童の実態に合わせたワークシートの開発・板書や教具活用の工夫等を行い、わかる授業を実践している。②学力・学習状況調査の結果からつけたい力を明確にし、少人数指導や教科担任制を効果的に生かし、一人ひとりに寄り添った支援をする。③朝学習や家庭学習を活用して繰り返し学習を計画的に進める。	①学年間で相談し、授業の進め方やワークシートについて相談しながらよりよい授業づくりができた。②一人ひとりに合った学習内容を実践する上で、教科担任や少人数指導のよさがみられた。③学年で話し合いながら、朝学習や家庭学習を計画し、基礎・基本の定着を図った。	B
豊かな心	①重点研究の研究テーマを「自他のよさを認め合い、よりよく生きようとする心を育てる」とし、道徳の授業研究を通して、お互いの思いを伝える場を作り、振り返りを充実させる。②たてわり活動を計画的に行い、めあてを意識した活動内容を取り入れ、異学年のつながりを築けるようにする。③読書活動を通して、豊かな心性を育てる。	①授業展開の中で、意識して場を設定するようになった。また、道徳だけでなく他教科でも話し手を意識する等の、聞き方の指導につながった。②振り返りカードを作り、毎回のめあてを意識するようにした。③司書教諭と連携し、授業で取り上げられる本を選定してもらったことで、並行読書につながった。	B	豊かな心	①道徳の授業研究を通して、自分の思いを引き出す手立てや、お互いの思いを伝えるための展開の工夫をする。②たてわり活動を計画的に行い、めあてを意識した活動ができるように振り返りカードを使う。③読書活動を通して、本に親しみ豊かな心性を育てる。④幼小小の交流では、グループで相談や話し合いをしながら、一緒に楽しむ活動を取り入れていく。	①授業の前のアンケートや、ワークシート、グループ活動などを取り入れ、伝える雰囲気を作った授業ができた。②たてわりは、活動時間をもっと確保できるようにしていく。③司書教諭との連携をさらに増やし、読書に親しんだり、行事の前二本を紹介して関心を高めるようにしたりした。④幼小小は、話し合い活動で子どもとの交流が深まった。	B	豊かな心	①道徳の授業を通して、自己を見つめ、教材分析等で広い視野から物事を考えられるような授業作りの工夫を行う。②たてわり活動を計画的に行い、めあてを意識した活動ができるよう振り返りカードを活用する。③読書活動を通して、本に親しみ豊かな心性を育てる。④幼小小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、一緒に楽しむ活動をする。	①学年やブロックで共同的道徳の授業について考え、全職員で授業力の向上化を図れた。②6年生は、1年生と年間を通して交流することで、意識の継続に結び付いた。③読み聞かせや読書タイムなど、本に親しみ豊かな心性を育てる。④幼小小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、一緒に楽しむ活動をする。	A
健やかな体	①全校ジャンピングや中休みの体育用具貸出、体育協会の方による遊びの体験、学校保健委員会でのリズムトレーニングの紹介など、様々な取り組みを通して、それぞれが自分に合った運動の楽しさを感じ、日常的に運動に取り組みうとする子を育てる。②マラソンクラブ(11月～5月)での取組を通して、走る楽しさや体力の高まりを実感できるようにする。	①意欲的に縄跳びやリズムトレーニングに取り組み、運動の楽しさを味わっていた。②4年生以上約60人が自己ベストを目指して意欲的に走り、自己の体力の向上を実感した。☆重点的に取り組んできた項目で体力テストの数値が改善し、5年男女共に20mシャトルランや反復横跳びで神奈川県平均を上回った。	B	健やかな体	①様々な活動を通して、普通遊びやゴム跳びなど、今まで知らなかった運動に出会い、運動の新たな楽しさに気づくことができた。一人ひとりがより主体的に取り組むことができるように、内容や方法を見直しながら活動を継続していく。②自己記録を意識しながら練習を重ねる中で、体力の高まりを実感し、走る楽しさを味わっていた。	①全校ジャンピングや中休みの体育用具貸出、体育協会の方による遊びの体験、学校保健委員会でのリズムトレーニングの紹介など、様々な取り組みを通して、それぞれが自分に合った運動の楽しさを感じながら運動に取り組みうとする子を育てる。②陸上クラブ(11月～7月)での取組を通して、走る楽しさや体力の高まりを実感できるようにする。	A	健やかな体	①体育科カリキュラムの系統性を見直し、小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。②全校ジャンピング(1分間跳び+リズム縄跳び)や中休みの体育用具の貸出、体育協会の方による遊びの体験など、様々な活動を通して、自分に合った運動の楽しさを感じながら運動に取り組もうとする子を育てる。③陸上クラブは、体力のさらなる高まりを目指したり、自ら大会に参加したりする意欲的な姿	B	
特別支援教育	①一般学級、個別支援学級の教室環境や授業の工夫を紹介し合い、ユニバーサルデザインを取り入れた環境・授業作りに取り組む。②一般学級と個別支援学級の担任が、ていねいに情報を共有し、個別支援級の児童が安心して参加し、共に成長できる共同学習や交流をする。	①初任研や研究授業、職員室での情報交換で、教室環境、授業の工夫を紹介し合い、取り入れたことができた。今後も進めていきたい。②週案での予定の共有のほか、日々の生活の様子や気になること、また、新しい単元や行事に取り組むときの配慮事項等を適宜相談しながら、共同学習や交流を進める。	B	特別支援教育	①各学級での取り組みを紹介し合い、支援方法の選択の幅を広げられるようにした。また、校内研修で発達障の特性に対する理解を深めたり、合理的配慮のアイデア集を紹介したりすることで様々な支援の手立てを学んだ。②交流等を通して、個別支援学級での支援を発信し、個に応じた支援のあり方を探る	①各学級での取り組みを紹介し合い、支援方法の幅を広げられるようにした。また、校内研修で発達障の特性に対する理解を深めたり、合理的配慮のアイデア集を紹介したりすることで様々な支援の手立てを学んだ。②交流等を通して、個別支援学級での支援を発信し、個に応じた支援のあり方を探る	B	特別支援教育	①一斉指導の中でもできる一人ひとりのニーズに応じた指導法を工夫し、個に応じた学び方や支援の方法について個別学級担任、一般学級担任が学び合える機会をつくる。②個別学級担任、交流級担任がていねいに情報を共有し、どの子どもも安心して学習できるように環境を整える。	①研修についての報告や、個別級の様子の紹介など、ミライムを通して情報共有ができていた。②一般級担任と個別学級担任が、日常の中で自然に情報交換する・共有できた。③発達障の特性について学び合うことができた。④発達障の特性等についての理解を深め、指導に生かす。	B
児童指導	①児童の実態に配慮し、より分かりやすい「下野庭スタンダード」を目指して見直しを加えるとともに、一貫性のある指導にあたる。②学年研究会・職員会議の中で児童理解の場を定例化し、児童の状況を把握する。③児童の委員会活動を中心に、引き続き心のこもった「あいさつ運動」を推進していく。	①下野庭スタンダードの見直しを進めた。②児童理解の場を定例化し、児童の状況を把握することで、素早い対応をするとともに、問題を未然に防ぐことができるように努めた。③児童の委員会活動、学年でのあいさつ運動の取り組みを続け、心のこもった「あいさつ」が定着するように努めた。	B	児童指導	①実態に合わせて再検討し、「下野庭スタンダード」を改訂した。一貫性のある指導に努めた。②児童理解の場を定例化することにより、多くの目で児童を見守り、支援していくことができるようになってきた。めあてをもった「あいさつ運動」に取り組むことができた。	①児童が分かりやすい「下野庭スタンダード」を作成し、周知徹底し、一貫性のある指導をする。②学年研究会・職員会議の中で定例化した児童理解の場、児童の状況や対応策を共有し、指導に生かす。③個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。	A	児童指導	①「下野庭スタンダード」を周知徹底し、一貫性のある指導をすると同時に実情に即しているかについて点検と見直しをする。②学年研究会・職員会議の中で定例化した児童理解の場を、児童の状況や支援策を共有し、指導に生かす。③あいさつ運動の大切さを知らせ、個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。	①下野庭スタンダードを配付したことで共通理解の上で一貫した指導を行っている。②学年研や職員会議で児童の様子を互いに伝え合うことができた。自分の学年だけでなく、他の学年についても、学校全体で共有できた。③あいさつ運動は定着した。タブレットで自分たちのあいさつの様子を振り返ったことで、変化が見られた。	B
地域連携	①学校・地域コーディネーターを中心に学校と地域を繋ぎ、学習支援ボランティアの導入や、まちの方との関わりから児童の豊かな学びを支援する。また活動を発信し、学校・地域の連携を図る。②夏祭りや福祉の集い等の地域行事に積極的に参加し、地域の方々と交流を深める。③地域の代表者との懇話会を通して情報共有したことを生かしていく。	①学習支援ボランティアの導入により、専門的な知識でサポートしていただき、子どもたちの豊かな学びと結びついた。さらに広げていきたい。②夏祭りへの参加やマーチングの出演等、地域行事には積極的に参加することができた。③懇話会で顔の見える関係ができ、地域と学校が協力して子どもたちを育てていく体制ができている。	A	地域連携	①学校・地域コーディネーターを中心に支援組織の機能を円滑にし、学習ボランティアやまちの方との関わりを充実させ、児童の豊かな学びを支援する。また活動を発信し、学校と地域の連携を図る。②夏祭りや福祉の集い等の地域行事に積極的に参加し、地域の方々と交流を深める。③地域の代表者との懇話会を通して情報共有したことを生かしていく。	①学習ボランティアの活動をさらに広げ、様々な活動で児童の豊かな学びを支援していただいた。今年度は新一年ボランティアを導入し、1年生はスムーズに学校生活がスタートできた。②夏祭りへの参加やマーチングの出演等、今年も積極的に交流することができた。③懇話会の方とは連携を深め、協力していく体制ができている。	A	地域連携	①コーディネーターを中心に計画的に学習支援組織の機能を生かし、学習支援ボランティアや保護者との関わりを充実させ、豊かな学びを支援する。また活動を発信し、学校と地域の連携を深める。②夏祭りや福祉の集い等の地域行事に積極的に参加し、地域の方との交流を深める。③地域の代表者との懇話会を通して情報共有したことを児童指導に生かす。	①コーディネーターを中心に計画的に学習支援ボランティアの方に協力していただき、豊かな学びを作っていくことができた。②夏まつり等で、学校の中では見えない姿を見ることができた。マーチングの出演等も行き、交流することができた。③地域の方との懇話会を設け、協力していく体制が取れている。	B
				いじめへの対応	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場面で活用する。②アセスメントシートや学級編成会議等を活用し、組織的に情報共有を行い、児童理解に生かす。③カウンセラー等の専門職との情報共有の場を設定する。	①いじめの未然防止のために「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を定期的に活用できるよう年間計画を立て、実施している。②「いじめは絶対に許さない」という風土を作るよう努めた。③いじめを受けた児童、いじめを行った児童に対する指導の体制・対応方針を周知し	A	いじめへの対応	①学校いじめ防止基本方針に基づく年間計画の作成・実行・検証・修正を行う。②学校いじめ防止対策委員会の存在および活動を児童及び保護者に周知する。③「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を定期的に活用するとともに、授業においても活用できるよう情報交換を密にする。	①報告しやすい雰囲気があり、いじめではないかと思うことは学年・専任に報告→学校いじめ防止対策委員会という流れがスムーズに行われていた。委員会の機能が果たされている。②活動は取れているので、さらに周知していく。③横浜プログラムは、児童を多面的・多角的に与える情報の一つとして活用できた。	B
人材育成・組織運営	①メンターチーム研修を充実させ、互いに授業公開をし、中堅・ベテランとの意見交換も取り入れて学習指導と生活指導双方の実践力を高める。②特別支援や人権等の校内研修を計画的に行うことで教師力を高め、学年・学級経営に生かしていく。③週に1回、教務会を行い、ミドルリーダー・学校リーダーが全体を見通して学校運営をしていく場を設定する。	①年間計画を立て、テーマに沿った話し合い、参加した研修の情報交換、授業参観ウィークの実施など工夫してすすめることができた。②人権研修、自己肯定感研修、幼小小連携研修等、計画的に研修を位置づけ教師力を高めた。③教務会では週の予定を確認・調整し、学校運営が円滑に進むように努めた。さらに発信力をつけていきたい。	B	人材育成・組織運営	①年間計画を立て、テーマに沿った話し合い、授業参観ウィークの実施等を通して工夫し、互いの授業力向上に努めた。また、積極的な指導を仰いでいた。②人権研修、児童理解研修、特別支援研修等を計画的に実施し、教師力を高めた。③教務会では、週予定の確認・調整、情報交換を密に行い、見直しをもった学校運営に努めた。	①メンターチーム研修を充実させ、互いに授業公開をし、意見交換や指導を仰ぐことで学習指導と生活指導の実践力を高める。②特別支援や人権等の校内研修を計画的に行うことで教師力を高め、チーム意識をもって諸問題に対応していく。③週に1回、教務会を行うことで、学校リーダーが常に全体を見通し、学校運営が円滑にすすむように取り組む。	B	人材育成・組織運営	①メンターチームは、毎月必ず集まり研修を行い、先輩方から指導いただいたり、悩みを相談したりすることができた。②研修は年度当初に計画し、行うことができた。③授業や児童指導の行い方を話し合える時間の設定ができるようにしたい。	B	
ブロック内相互評価後の気付き	今年度は小中合同で児童生徒理解に関する研修会を行った。小中各校での児童生徒指導のスタンダードや指導方法についての交流を行い、職員の意識の高まりが見られた。専任間の連携もこれまで以上に強め、学校評価でも児童生徒指導に関する項目の高まりが見られた。また、体力向上の取組については委員会の取組やクラブ活動、部活動などを通して行われており、児童生徒の体力向上へとつながっている。今後も小中9年間の教育課程を互いに理解した上で、小中9年間の系統性を踏まえた取組を続けていきたい。次年度はこれまでの取組に加え、「豊かな心」をテーマに研修を深めていきたいと考えている。		ブロック内相互評価後の気付き	「小中9年間の教育課程を互いに理解し、子どもたちの豊かな心を育てよう」というブロックテーマのもと、小中合同で人権研修を行い、職員の人権意識を高揚させることができた。また、道徳を通して子どもたちの豊かな心を育てられるように、ブロック全体で道徳の授業研究を行い、指導や授業展開について話し合いを深めた。小中でのボランティアやビブリオバトルなどの小中一貫の活動は定着したものである。小学校は中学生に親近感をもって接することができるなど、小中のつながりが生まれてきているので、そのつながりをさらに確かなものとしていきたい。体力向上に向けては、ブロック全体の課題であり、今後より連携を深め課題の解決に向けて取り組んでいきたい。		ブロック内相互評価後の気付き	小中合同で人権研修を行い、職員の人権意識を高揚させることができた。また、道徳を通して子どもたちの豊かな心を育てられるように、ブロック全体で道徳の授業研究を行い、指導や授業展開について話し合いを深めた。小中でのボランティアやビブリオバトルなどの小中一貫の活動は定着したものである。小学校は中学生に親近感をもって接することができるなど、小中のつながりが生まれてきているので、そのつながりをさらに確かなものとしていきたい。体力向上に向けては、ブロック全体の課題であり、今後より連携を深め課題の解決に向けて取り組んでいきたい。				
学校関係者評価	・学級が大変落ち着いていて、子どもたちがみんなで勉強しようという気持ちが見とれた。・学校でのあいさつの取組によって、子どもたちは、登下校時だけでなく、放課後出会った時にも挨拶をするようになってきた。今後も続けてほしい。・読書活動を継続的に行うことで集中力がつく。どの子も読書は好きなようで、感想を書くなど行って習慣づけるとよい。読書の経験は、学習能力の違いに繋がる。家庭学習の習慣も中学校へ繋がる。小学校からの習慣がどれだけ大事か懇話会等で発信してほしい。		学校関係者評価	・子どもたちが元気で、先生方もよく指導している。指導内容がわかりやすいのでよく手を挙げているのだと思う。絵を活用するなど、子どもたちがわかりやすいように授業を工夫している。・挨拶の取組が広がって地域の学援隊の方にもよく行っている。・保護者による学校評価で、全体的によい評価結果であった。特に「体力向上」「挨拶」「体験的な教育活動の充実」は、評価が高く、これまでの取組の成果の表れだと考える。・小中や幼・保・小塔の連携がスムーズに行われている。今後続けてほしい。・子どもたちは地域に見守られて成長する。地域と一体になってさらに子どもたちの力を伸ばしていきたい。		学校関係者評価	・離席している児童がいないこと、教師の話や活動にみんなが取り組んでいることに感心した。・外国語活動の様子を見ることができたことは、よかった。今後の教員に求められているものが大変な様子を実感することができた。・算数少人数指導について、具体的な取組を見ることで、子ども一人ひとりに応じた教育がなされていることを今後も続けてほしい。全体を通して、様々なボランティア活動を通して、本校の教育活動に携わっている中でも、上記内容について日常的に感じていることが多いように感じられた。				
学校経営中期取組目標振り返り	学力向上に向けて児童の実態に応じた学習支援の方法やアクティブラーニングを導入した授業づくりの工夫などを行ったことで意欲的に学習に取り組む児童が増えた。学年によって学力の伸び率の違いは見られるが基礎・基本の定着に努めていた。道徳の重点研究や特別活動、日々の学校生活等で、自分の良さに目を向ける機会を設定したが、自分の良さを十分実感するところまで至っていない。体力においては、様々な取組から遊ぶ楽しさを味わうことができたが自らの体力に目を向けて改善していくところまで至っていない。地域の教育力を導入したことで学習成果も上がった。学校教育の理解にもつながった。		学校経営中期取組目標振り返り	毎時間、学習のめあてを明確にし、問題解決学習をすすめることで学習スタイルを身につけてきている。基礎・基本の定着に向けて、学習方法や家庭学習の工夫等を行った個人差が大きかった。より、指導に力を注いでいく。児童が安心して学校生活を送れるように「下野庭スタンダード(児童版)」を作った。来年度は、児童全員に配布し校内ルールの徹底に努めた。体力向上に向けた取組が定着し、遊びを広げることができた。学習支援・一年ボランティア・幼小小の取組を地域の方に協力していただき、組織的に推進することができた。それぞれの成果も上がっている。		学校経営中期取組目標振り返り	多重階層の学力の学級がほとんどである。そのために、理解し行動に移すことができる児童と理解することが難しいため行動に移すことが困難な児童への指導の在り方が問われる学校の現状である。その中においても、様々な学校行事の指導の在り方、児童指導・児童理解への教職員の理解がなされているため、重篤な事案に展開していくことがなかった。そのことから、本校の児童の実態、家庭環境の状況に対応した教育活動はなされていると考えられる。しかし、学習状況等における学力に対して、教諭等については、定着率を高めていきたい思いをもっている。重点研究棟をはじめに、自尊感情を高めつつ、自信・意欲の向上について、具体的な取り組みをすすることが求められる。				